

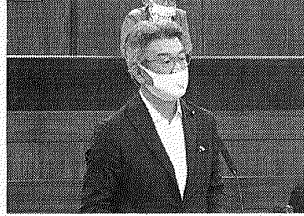
ポスト3か年、いや5か年を

足立 議員 強化緊急対策の継続要請

災害対策院参



足立議員



武田大臣

足立敏之参議院議員は28日、閉会中審査となった参議院災害対策特別委員会で、今年の7月豪雨

発生した九州北部豪雨を契機に、政府が取り組みを開始した「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」が、今年度で終了してしまうことに言及。自然災害による被害が年々、頻発化・激甚化する中、これを「引き

これに武田良太内閣府特命担当大臣(防災・国土強靱化)は、「このまま自然災害が激甚化・多発化する中で、年々、国土強靱化政策の重要性は増してきていると考えている。多くの先生方に協力を頂いた3か年緊急対策も最終年度を迎えた

た補正予算1兆1520億円で「水害に関する河道掘削や堤防強化を進めている」としたほか、17日に閣議決定した骨太の方針2020にも触れ、「国土強靱化の方向性について」も書かせて頂いた」と説明。

「国土強靱化の方向性について」も書かせて頂いた」と説明。同方針には、「3か年緊急対策後も「中長期的視点に立つて計画的に進めていくんだ」としてこれを実行に移していくには、必要・十分な予算を確保してこれを確実に進めていくことを記させて

△本体を建設するだけの状況にあるものの、政權交代等によって中止に追い込まれているため、ダムを含め、抜本的な治水対策を改めて検討すべき」と主張した。

このほか足立議員は、今回の自然災害により熊本県のみならず、岐阜県や大分県などでも被害が生じ、通行止めになって区間が発生していることも指摘。

「引き続き継続して計画的に実施する必要がある」と主張し、その継続やポスト3か年緊急対策の必要性を訴えた。

「だが、まずはこの取り組みをしっかりと進めていくことが重要」と答弁。また、19年度に計上し

また足立議員は、今年の7月豪雨により、熊本県で決壊した球磨川についても質問。

元々、ここには「川辺川ダム」が計画されており、水没者の99%は移転を終え、仮排水路トンネルは完成、付替道路は9割完成済みで、あとは夕

これに対し、国土交通省の五道仁実水管理・国土保全局長は、球磨川の抜本的な治水対策の検討に当たっては「再度災害防止」の観点が重要と指摘。再度災害を防止できると、「上流下流・本川支川の流域全体でハード・ソフト一体となって取り組む抜本的な治水対策」を国・県・市町村の連携によって検討したい考えを示した。

これを片側1車線の交互通行による交通解放を目指し、大分県を通過する国道210号は8月20日を目的に片側1車線の交互通行を目指し、応急復旧を進めていることを明らかにした。